

「病院の経営悪化深刻 全日本病院協会会長緊急助成訴え」

病院の収支が4月だけで平均約3,700万円、患者を受け入れた病院に限ると平均9,600万円の赤字になるなど新型コロナウイルスによる医療機関の経済的な窮状が、病院関係3団体の緊急調査で明らかになった。5月27日3団体を代表して記者会見した全日本病院協会の猪口雄二会長は、特に新型コロナウイルス感染患者の入院を受け入れた病院の経営悪化が深刻であることを強調した。政府による緊急的な助成がなければ、今後の新型コロナウイルス感染症への適切な対応は不可能となり、地域での医療崩壊が強く危惧される、と訴えている。



ビデオ会議システムを利用した日本記者クラブ主催の記者会見で新型コロナによって悪化する病院経営の実態を説明する猪口雄二全日本病院協会会長

同日公表された一般社団法人日本病院会、公益社団法人全日本病院協会、一般社団法人日本医療法人協会の「新型コロナウイルス感染拡大による病院経営状況緊急調査(最終報告)」は、5月7日～5月21日に3団体に加盟する4,332の病院にメールで調査票を送り、1,307病院から回答を得ている(回答率30.2%)。ベッド数500床以上(148病院)から20～99床(249病院)まで規模はさまざまだ。このうち新型コロナ感染症への対応として「帰国者接触者外来」を設置している病院は全体の31.1%、患者の入院を受け入れた病院は28.5%、一時的に病棟閉鎖に追い込まれた病院が14.7%となっている。

■コロナ患者受入状況における経営指標の比較_全国

(単位：千円)	有効回答全病院 n=1,203			コロナ患者入院未受入病院 n=864			コロナ患者入院受入病院 n=339			一時的病棟閉鎖病院 n=180		
	2019年4月	2020年4月	前年比	2019年4月	2020年4月	前年比	2019年4月	2020年4月	前年比	2019年4月	2020年4月	前年比
医業収入	481,996	431,475	-10.5%	272,730	251,648	-7.7%	1,015,346	889,795	-12.4%	939,118	804,941	-14.3%
入院診療収入	322,919	293,273	-9.2%	187,792	178,245	-5.1%	667,312	586,441	-12.1%	616,859	531,020	-13.9%
外来診療収入	138,286	122,900	-11.1%	73,180	65,454	-10.6%	304,219	269,313	-11.5%	278,282	240,162	-13.7%
その他医業収入	22,383	17,563	-21.5%	13,975	11,098	-20.6%	43,814	34,041	-22.3%	44,572	34,427	-22.8%
医業費用	474,160	467,877	-1.3%	266,453	264,599	-0.7%	1,003,539	985,966	-1.8%	935,553	921,280	-1.5%
医薬品費	82,715	79,937	-3.4%	37,384	37,481	0.3%	198,250	188,142	-5.1%	185,585	175,500	-5.4%
診療材料費	53,035	48,312	-8.9%	24,086	22,868	-5.1%	126,817	113,162	-10.8%	114,977	100,826	-12.3%
給与費	230,087	232,964	1.3%	142,350	144,030	1.2%	453,701	459,629	1.3%	416,965	425,247	2.0%
その他経費	110,597	109,913	-0.6%	65,799	64,745	-1.6%	224,772	225,033	0.1%	218,027	219,706	0.8%
医業利益	7,147	-36,976		5,319	-13,749		11,807	-96,172		3,906	-115,571	
医業利益率	1.5%	-8.6%		2.0%	-5.5%		1.2%	-10.8%		0.4%	-14.4%	

(猪口雄二全日本病院協会会長記者会見資料から)

調査の結果、明らかになったことの一つは、コロナ患者を受け入れたか否かにかかわらず新型コロナウイルス感染症が病院経営に深刻な影響を及ぼしている実態。4月の利益を見ると、患者の入院を受け入れていない864病院の医業利益は平均1,375万円の赤字、入院を受け入れている339病院は平均9,617万円の赤字、一時的に病棟を閉鎖せざるを得なかった180病院は平均1億1,557万円の赤字となっている。全病院平均でみると3,698万円の赤字となる。

猪口会長が注意を促したのは、病院はそもそもぎりぎりの利益率で運営している現実。回答した全病院の平均でみると昨年4月の医業利益は715万円でこれは医業利益率でみると1.5%にすぎない。一方、今年4月の赤字額を医業利益率でみると、患者の入院を受け入れていない864病院は平均マイナス5.5%（2019年4月に比べマイナス7.4ポイント）、入院を受け入れている339病院は平均マイナス10.8%（同マイナス12.0ポイント）、一時的に病棟を閉鎖せざるを得なかった180病院は平均マイナス14.4%（同マイナス14.8ポイント）、全病院では平均マイナス8.6%（同マイナス10.1ポイント）となる。昨年4月に比べると大幅な赤字転落だ。「もともと病院は1～2%という利益率の中で必死に運営している。利益率が10%も赤字になると運営は苦しい」。猪口会長は病院の窮状を強調した。

医業利益率（2019年4月と2020年4月の差）

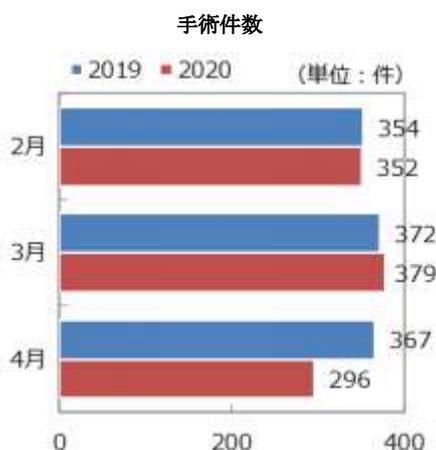


(猪口雄二全日本病院協会会長記者会見資料から)

調査で明らかになったもう一つは、経営悪化の理由が短期的に解消されそうもないこと。患者の入院を受け入れた病院では、4月の外来患者延べ数と初診患者数が昨年4月に比べそれぞれ79%、58%に減っている。これは患者が感染を恐れて病院に行くのを控えたことが大きな理由とみられる。一方、コロナ患者を受け入れたことに伴う直接的な影響といえる入院患者延べ数と新入院患者数もそれぞれ85%、79%に減った。手術件数も81%に、救急患者受け入れ件数も64%に減っている。猪口会長によると、例えば集中治療室(ICU)に5つのベッドを持つ病院でも一人の新型コロナ患者を受け入れると他の4床を使うことができず、心臓手術など他の患者の大きな手術ができなくなるというのが実態。他の医療業務に及ぼす影響が大きいということだ。

新型コロナ患者入院受け入れ病院の外来患者・初診患者・手術件数 (2019年2~4月と2020年2~4月の比較)





(猪口雄二全日本病院協会会長記者会見資料から)

新型コロナウイルスによる病院経営への悪影響は、患者を受け入れた病院だけに限らないことは、患者の入院を受け入れていない病院と一時的に病棟を閉鎖せざるを得なかった病院の調査結果からも裏付けられる。全病院の平均値でも在院患者延べ数、新入院患者数の減少をはじめ同様な傾向がみられた。地域別でみると特に東京都の病院の影響が大きいのが目立つ。例えば外来患者延べ数は 70%、初診患者数は 36%、入院患者延べ数 84%、新入院患者数 70%、手術件数 64%、救急患者受け入れ件数 54%と軒並み大幅な減少がみられる。

こうした現象は、主として病院の急性期患者に関わるものだが、今後はリハビリに移行する患者の減少といった病院経営を長期にわたって悪化させる懸念があることも猪口会長は指摘した。さらに新型コロナウイルスが及ぼす影響は病院の経営悪化にとどまらないことにも猪口会長は注意を促した。外来患者、初診患者の減少だけでなく、健康診断業務が 4 月から全くできない病院がたくさんある。初診患者の減少や健康診断の遅れにより病気の発見が遅れ長期的なリスクを負う人々が増え、さらに手術が遅れることで不利益を被る患者も増える。こうした可能性を指摘した上で「新型コロナ患者に対応する病院とその他の患者に対する手術を集中的に病院と役割分担をしないと問題は解決できない」と、猪口会長は語った。

病院にとって今後の大きな課題として猪口会長は、新型コロナウイルス感染の第 2 波、第 3 波の到来に対する準備を挙げた。これまで院内感染が起きないかという恐怖の中で病院職員が対応してきた現実を指摘し、特に PCR 検査あるいは新しい抗原検査をどの病院でもすぐまでできる態勢づくりが不可欠であることを強調した。

関連サイト

日本記者クラブ会見レポート 『『新型コロナウイルス』 悪化する病院経営 猪口雄二・全日本病院協会会長』

<https://www.jnpc.or.jp/archive/conferences/35663/report>

同 YouTube 会見動画

<https://www.youtube.com/watch?v=6K6twa7ZCk&feature=youtu.be>

猪口雄二・全日本病院協会会長記者会見資料

<https://s3-us-west-2.amazonaws.com/jnpc-prd-public-oregon/files/2020/05/c683e2ea-f1f1-4e23-9f64-d01ec1d18668.pdf>